



2019 年 8 月 22 日
一般社団法人美園タウンマネジメント

「スマートシティさいたまモデル」の構築を目指す さいたま市美園地区 公道での自動運転バス走行実証実験を 9 月に実施 各種地域サービス等との連携も見据えた域内交通サービス研究

一般社団法人美園タウンマネジメント（埼玉県さいたま市、代表理事：西宏章慶應義塾大学教授）は、さいたま市美園地区における域内交通サービス研究の一環として、昨年度浦和美園歩行者専用通路にて実施された自動運転バス試乗会に引き続き、今年度 9 月 2 日～6 日に浦和美園駅周辺にて実施される自動運転バス公道実証実験に参画し、自動運転技術の社会実装に係る技術面・運用面の課題や社会受容性等の検証を支援するとともに、本実験成果をエリア交通戦略『(仮称) 美園スマートモビリティデザイン』の検討調査にも活用して参ります。

さいたま市の“副都心”の 1 つ「美園地区」では、埼玉高速鉄道線「浦和美園駅」を核に埼玉スタジアム 2002（以下、埼スタ）も囲みながら大規模な都市開発が進行中ですが、開発進展に伴う施設立地や子育て世代を中心とした居住人口増により、地区内の自家用車利用（買物交通や朝夕のキス&ライド等）が近年増加しつつあります。

同駅前では、駐車ニーズの高さから“青空駐車場”としての土地利用が顕著で、都市機能集積や土地の高度利用化が進んでおらず、住民・来街者の利便性や賑わい等が不足しています。また埼スタ近辺等では、日常交通サービス不足（公共交通空白地域）等を背景とした土地利用停滞によりサッカー開催時の臨時駐車場が増え、却って自家用車利用が助長され、サッカー観戦者交通と生活交通との輻輳による道路渋滞悪化も顕在化ⁱしています。埼スタの他にも本地区には大型商業施設等の地区外利用者も多い集客施設が立地しており、建設予定の医療福祉拠点施設をはじめ更なる施設数増に伴う地区内の交通弱者増加も予想されます。一方、周辺の既成市街地・市街化調整区域では高齢化進行も今後見込まれており、まちの発展・成熟に伴う滞在人口（夜間人口・昼間人口・交流人口）や土地利用等の変化に応じた柔軟な交通マネジメントを通じて、過度な自家用車利用を抑制し、低環境負荷で、誰もが移動しやすい交通体系構築による地区内モビリティ向上が重要なまちづくり課題となっています。

こうした地域課題の解決に向け、各種モビリティシェアリングのサービス実証が展開され、また、AI・IoT・ビッグデータ等の先端技術の有効活用や域内循環交通・オンデマンド交通等の導入も見据えたエリア交通戦略『(仮称) 美園スマートモビリティデザイン』の策定調査も着手ⁱⁱされていますが、将来の就労人口減少等も鑑みた持続可能な交通事業モデル構築に向けては、とりわけ自動運転技術に期待が寄せられています。同技術に係る本地区でのフィールド研究としては、昨年 9 月に浦和美園歩行者専用通路（埼玉高速鉄道敷地）にて閉鎖空間での自動運転 EV バス試乗会が行われましたが、その成果も踏まえつつ今年度は、浦和美園駅周辺での自動運転バス公道実証実験ⁱⁱⁱが 9 月 2 日～6 日に実施されることとなりました。

本公道実証実験においては、自動運転技術の社会実装に係る技術面・運用面の課題や社会受容性等の検証を行う中で、将来的な交通事業モデル化検討も視野に、異なる交通モード間のシームレスな接続や、域内の地域サービス・事業活動等との連携も見据えた実証項目が予定されています。本実験成果を前掲戦略策定調査にも活用し、本地区の QOL 向上や都市活動の活性化に資する域内モビリティ向上方策検討を一層推進して参りたいと思います。



▲昨年 9 月に実施した自動運転 EV バス試乗会の様子



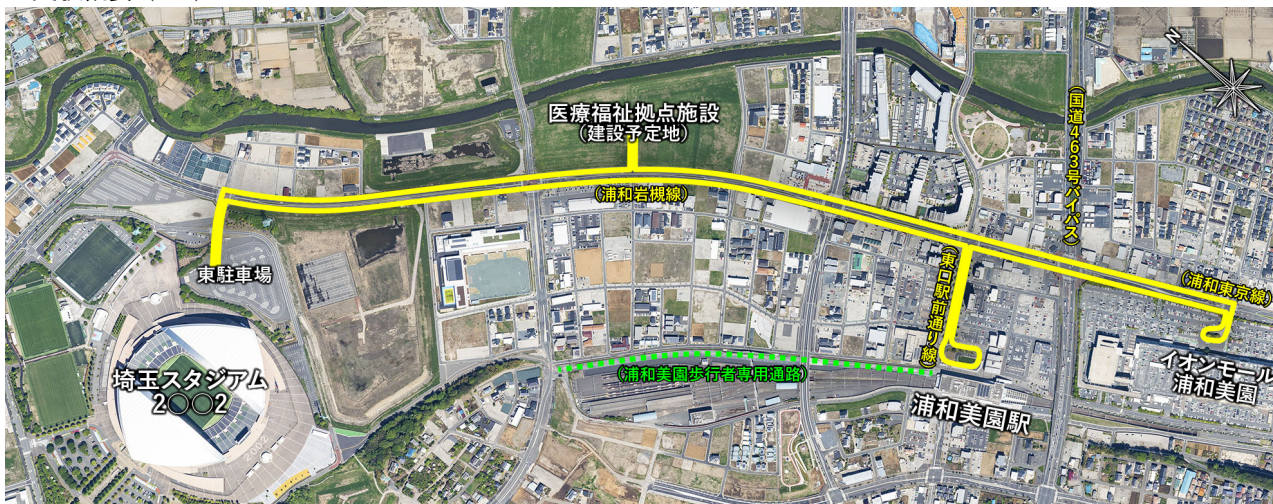
▲今年度実験で使用するバス車両（イメージ）

2019 年浦和美園駅周辺における自動運転公道実証実験 <実施概要>

■目的 「自動車用運転自動化システムのレベル分類及び定義」におけるレベル 2 での自動運転バス車両の公道走行・関連技術等の実証実験を通じて、同レベル 4 の社会実装を目指す上での技術課題・運用課題や、同技術の本地区における活用・展開に係る社会受容性等の検証を行う。

■実施日時 2019 年 9 月 2 日(月)～6 日(金) 10 時～12 時、13 時～15 時 ※毎時 2 本運行予定 ※荒天中止の場合あり

■実験概要 (予定)



▲公道走行実証実験区域 (予定)

- 循環ルート：浦和美園駅（東口駅前広場）～埼玉スタジアム 2002 公園（東駐車場）～医療福祉拠点施設（建設予定地）～イオンモール浦和美園（バスロータリー）～浦和美園駅（東口駅前広場）
- バス乗務員による自動運転車両の運行オペレーションの検証【国際興業(株)】
- 道路インフラ側に設けたセンサーを通じて、自動運転車の交差点通行時の危険等をインフラ側から車両側へ情報連携するセンサー技術の検証【日本信号(株)】
- 自動運転バスに試乗いただいた一般参加者（8 月 22 日より公募予定）や招待参加者等へのアンケート調査を通じた自動運転技術の社会受容性等の検証【(一社)美園タウンマネジメント 他】
- IC カードシステムを活用した運賃支払・認証シミュレーションを通じた、地域サービス等と自動運転バス乗車との連携検証【イオンリテール(株) 他】
- 電動車いす等のパーソナルモビリティのシームレスな移動接続の検証【埼玉高速鉄道(株) 他】



▲実験に関する詳細
埼玉高速鉄道
公式 Web サイト内

■実施体制

- 実施：埼玉高速鉄道(株)、(一社)美園タウンマネジメント、(大)群馬大学、イオンリテール(株)、国際興業(株)、日本信号(株)
- 協力：さいたま市、埼玉県

- i サッカー開催時の交通負荷分散に向けては、みその都市デザイン協議会（会長：久保田尚埼玉大学大学院教授、事務局：さいたま市浦和東部まちづくり事務所、(一社)美園タウンマネジメント）にて、2018 年 3 月策定・公表の『美園スタジアムタウン：スタジアムアクセス戦略』に即して、シャトルバス優先走行化交通社会実験等のトライアル事業に取り組んでいる。
- ii IoT・AI・ビッグデータ等の活用による効率的なマネジメントを通じ、今後とも変容していくまちの状況に対応しながら、公共交通等のモビリティ確保・最適化等を図るべく、みその都市デザイン協議会では 2019 年度よりエリア交通戦略『(仮称)美園スマートモビリティデザイン』の策定調査に着手している。同検討内容も含ましつつ国土交通省「スマートシティモデル事業」に応募したモデル事業提案（さいたま市スマートシティ推進協議会：さいたま市、(一社)美園タウンマネジメント、(一社)アーバンデザインセンター大宮で構成）は、2019 年 5 月に同省より「重点事業化促進プロジェクト」に選定された。
- iii 本実証実験の実施には、埼玉県の先端産業創造プロジェクト「埼玉県スマートモビリティ実証補助金」を活用している（代表申請者：埼玉高速鉄道(株)）。

《この件についてのお問い合わせ先》

一般社団法人 美園タウンマネジメント（担当：岡本）

Phone. 048-812-0301 E-mail. info@misono-tm.org